

保育実習後の大学生から見てくる学びと展望(1) －実習後のアンケート調査より－

西田 雅美

Consideration regarding the increase in special needs classes
Masami NISHIDA

キーワード：保育実習 模擬保育 保育技術

概要：学生が保育現場で実習を体験して多くの学びや反省点を気付くことで、次への展望が見られた。今回は保育技術を中心に実習後を振り返り、その思いを述べてもらった。3年生のほとんどの学生が何とか達成できたのが、「事前に立てた目標達成度」、「手遊びの実施」、「絵本や紙芝居の読み聞かせ」であった。半面、「手袋シアター（エプロンシアターなど）」、「ピアノの弾き歌い」、「指導案作成」、「研究保育の実施」については、半数弱から半数以上ができなかったことを自己評価していた。4年生は、「事前に立てた目標達成度」は94%、「手遊びの実施」は82%、「絵本や紙芝居の読み聞かせの実施」は100%であった。また、「指導案作成」、「研究保育の実施」については94%の学生が達成できていた。しかし、「手袋シアター（エプロンシアター）等の実施」は31%、「ピアノの弾き歌い」の実施は39%であった。

緒言

この数年間はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）のコロナ期にあり、学生にとっては、入学して卒業までの4年間で、遠隔によるリモート授業に始まり、直接の質問がなかなかできず、新入生にとっては友人関係が確立できないまま1年、2年が過ぎ、いろいろな戸惑いの中で過ごした学生生活だったと思われる。この期においては、大学側も学生のために最善の授業体制をとってきた中で、一番に困難を感じたのが、「実習」という実践を重視した、未来の就職につながる重要な学外実習ではなかったかと、筆者は感じていた。感染予防対策や消毒作業の中で、多くの大学が授業時間の調整や内容の工夫、提出課題の内容や期限、学外実習への対応や学内実習（代替授業）が工夫され、教員や学生同士との人間関係づくりなどに時間をかけて取り組んできた。

公益社団法人全国私立保育園連盟調査部は、令和2年4月と6月に全国の会員園に対して『新型コロナウイルス感染症に関する調査』を実施し、1,783の回答があった。

新型コロナウイルス対応により保育実習が代替授業へ変更されることについて、「やや反対（38.3%）」・「反対（20.9%）」・「その他（8.9%）」を含めた割合が約7割となっていること、保育士国

家試験に保育実習が含まれないことについて、「保育実習を必修にすべき（33.0%）」・「できれば保育実習を加えてほしい（48.1%）」・「現状のまま（保育実習なし）でよい（16.2%）」と全体の約8割が保育士資格取得には保育実習を含めることを望んでいること、保育士資格における保育実習の重要性について、「とても重要（実習内容の更なる充実化・現状のままで可を含む）である（75.9%）」・「出来れば経験して欲しい（22.8%）」が約10割近くとなっており、保育実習実施の必要性を強く感じていることが明らかとなっている。

目的

本年、保育実習（保育所）を担当することになり、今年度の学生の実習に対する思いがどのようなものかを学生の様子を観察したところ、経験があったからか、特に不安感を持っているようには感じられなかった。むしろ、自信を持っているように感じられた。そこで、今回は、「実習後の振り返り」について、学生にアンケート調査を行い、実習後の学びや課題を把握するとともに、今後の保育実習や実習指導、関連科目における指導の在り方について検討することを目的とした。

方法

令和5年度南九州大学人間発達学部子ども教育学科3学年14人、4学年16人に対して、保育実習後における「振り返りアンケート調査」を実施した。実習期間は、令和5年8月17日から令和5年8月30日までである。学生には、実習後の振り返りをする中で、新たな学びや次のステップへの自信となること、調査結果は、今後の保育実習の改善や研究の一環として使用することを話し、理解してもらった。

1. アンケートの内容

- 1) 各自5段階で1つの選択とした
 - (5)大変よくできた (4)良くできた (3)ふつう
 - (2)できなかった (1)全くできなかった
- 2) 選択理由を簡単に述べる
- 3) 質問項目
 - (1)事前に立てた実習の目標達成度は
 - (2)「手遊び」の実施は
 - (3)「絵本の読み聞かせ」の実施は
 - (4)「ペープサート、パネル・エプロン・手袋シアター」等の実施は
 - (5)「ピアノの弾き歌い」の実施は
 - (6)「指導案作成」は
 - (7)「研究保育」(責任実習)の実施は
 - (8)実習全体の振り返り(今後に向かっての感想)
 以上の項目である。

結果

3年生の実習アンケート結果

1. 事前に立てた実習の目標達成度 (図1)

「大変よくできた」を選択した学生は21% (3人)で、その理由として、それぞれの子どもに合わせた保育実践ができたこと、希望していた未満児の関わり方が学べたこと、意識しながら取り組みたいことを明確化して、積極的に関われたと述べている。次に、「よくできた」を選択した学生は、全体の64% (9人)であり、その理由として、目標に関連した「観察や気付き」が行われるように一日一日の目標を設定して取り組んだこと、泣いている子どもの関り方が分かったこと、園児の触れ合い方について改めて勉強できたこと、子どもの発達や保育者の役割、保護者支援についても学べたこと、子どもをよく観察することで『子どもが何をしたいか』を理解するように積極的に質問させて頂いたこと、一人ひとりの発達の違いを

考えて関わる事ができたこと、子どもたちと丁寧に関わり実習前の目標を意識して取り組めたと述べている。「ふつう」を選択した学生は7% (1人)で、全体に目を向けられなかったことや積極性に欠けていたことを挙げていた。「できなかった」を選択した学生は7% (1人)でその理由は、子どもたちとは積極的に関わられたが、保護者支援ができなかったことを挙げていた。「全くできなかった」を選択した学生は0%だった。

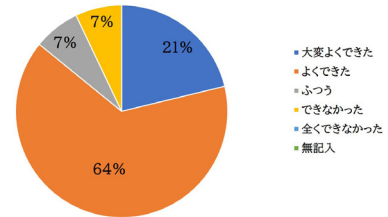


図1 事前に立てた実習の目標達成度 (n = 14)

2. 「手遊び」の実施 (図2)

「大変よくできた」を選択した学生は0%で誰もいなかった。次の「よくできた」を選択した学生は14% (2人)であり、その理由は、初めは恐る恐る子どもたちに関わっていたが、担当の先生にアドバイスを頂いてからは落ち着いて楽しんで関わられたこと、子どもたちの好きなキャラクターを使って遊びを実施したことが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は57% (8人)で、その理由は、穏やかな雰囲気作りができたこと、分かりやすい手遊びを選んだこと、絵本を読む前に実施したが園児が楽しそうではなかったこと、一対一での手遊びはできたが全体にはできなかったこと、手遊びの数をもっと増やしたいこと、年齢に合わせて実施できたこと、自信がなくてできなかったことが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は14% (2人)で、全体に対してはできなかったが空き時間に少数に対して実施したことが挙げられていた。「全くできなかった」を選択した学生は14% (2人)で、手遊びはできなかったがスキンシップはできたことや本読みや活動の前にはできなかったことが述べられていた。

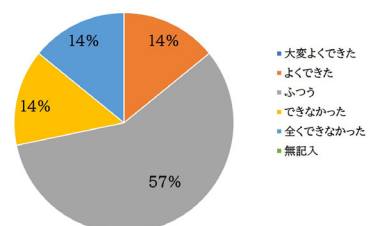


図2 「手遊び」の実施 (n = 14)

3. 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施（図3）

「大変よくできた」を選択した学生は14%（2人）で、選択の理由として、給食やおやつの前に実施したこと、子どもたちが興味を持ってくれるように子どもたちの目を見たり、共感したりしながら読む楽しみを共感できたことを挙げていた。「よくできた」を選択した学生は43%（6人）で、選択の理由として子どもたちの反応を見ながら読むことができたこと、読み方のご指導を戴き、朝の会・昼食後・帰りの会などで集中して読むことができたこと、給食前や午睡前に子どもたちが興味を持てるように工夫して読んだこと、子どもたちがよく聞いてくれていて質問が多かったこと、物語だけでなくその他の本も読み喜んでもらったことなどが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は43%（6人）で、その理由として、子どもたちの反応を見ながら読むことができたこと、少人数に読み聞かせできたが全体にはできなかったこと、絵本の選択や時間帯をよく考えればよかったこと、年齢に合った絵本を選択するべきだったこと、0、1歳児には読めたが他の年齢には読めなかったことなどが挙げられていた。「できなかった」「全くできなかった」についてはそれぞれ0%だった。

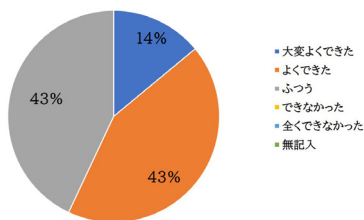


図3 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施（n=14）

4. 「ペープサート・パネル・エプロン・手袋シアター」等の実施（図4）

「大変よくできた」を選択した学生は、0%だった。「よくできた」を選択した学生は14%（2人）で選択の理由は、季節に合わせたキャラクターを用意し、読み聞かせの前に実施したこと、部分実習をさせて頂いた時に「仕掛け」を用いて導入できたことなどが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は21%（3人）で、自己紹介で実施したこと、カードを使って実施したこと、ペープサートを使用した色彩に工夫の必要性を感じたことなどが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は14%（2人）で、自己紹介でカードを使って実施したが難しかったこと、自己紹介で使

用しようとして準備したが実際には時間の都合で実施できなかったことなどが挙げられていた。「全くできなかった」を選択した学生は28%（4人）で、実施できなかったことが理由だった。「無記入」が21%（3人）だった。

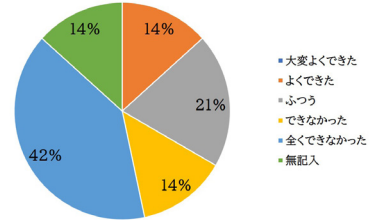


図4 「ペープサート・パネルシアター・手袋シアター」等の実施（n=14）

5. 「ピアノの弾き歌い」の実施（図5）

「大変よくできた」を選択した学生は7%（1人）で、讃美歌を子ども達と一緒に歌い楽しく取り組めたことだった。「よくできた」を選択した学生は0%だった。「ふつう」を選択した学生は14%（2人）で、季節の歌をもっと練習すべきだったこと、子どもの様子を見ながら弾けるようになりたいことなどであった。「できなかった」を選択した学生は21%（3人）で、ピアノは苦手だったので歌はしっかり歌ったこと、ピアノは苦手だったので弾かなかったこと、ピアノも弾かず、歌も歌わなかったなどが挙げられていた。「全くできなかった」を選択した学生は42%（6人）で、ピアノを弾く機会がなかったと答えた学生が多かったこと、自信がなかったこと、子どもがピアノを触る活動で自分には機会がなかったなどが述べられていた。

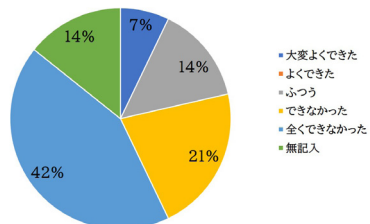


図5 「ピアノの弾き歌い」の実施（n=14）

6. 「指導案作成について」（図6）

「たいへんよくできた」を選択した学生は7%（1人）で、前々から準備して初日に指導案を提出し、担当の先生に見て頂いたことが良かったと述べている。「よくできた」を選択した学生は0%だった。「ふつう」を選択した学生は42%（6人）で、担任の先生と相談しながら、子どもが楽しめるように作成したこと、部分案については先生に「子どもの姿を想像して作成して下さい」と助言を戴い

たことで作成ができたこと、環境構成の欄がもう少し工夫が必要だと感じたこと、相手に伝わるように言葉を選び、用紙が埋まるように何回も書き直したこと、担当の先生に何回も訂正して頂き書き直して作成できたこと、ほとんど作成したことがなく質問しながら指導案を作成したことが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は0%だった。「全くできなかった」を選択した学生は28% (4人) で、設定保育がなくドキュメンテーションの作成を行ったこと、当日先生が決めてできなかったこと、研究保育がなかったこと、指導案作成をしなかったことなどが挙げられた。「無記入」は21% (3人) だった。

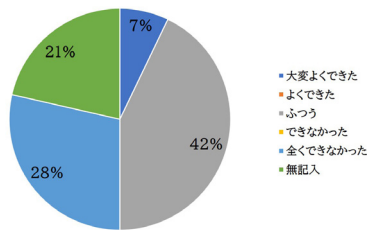


図6 「指導案作成」について (n=14)

7. 「研究保育」(責任実習) の実施 (図7)

「たいへんよくできた」を選択した学生は0%だった。「よくできた」を選択した学生は21% (3人) で、子どもたちに伝わるように丁寧に説明したこと、それぞれのクラスで事前に導入で絵本を読み、意識しながら読むことができたこと、部分実習で「プール遊び」をした時、金魚にカラーセロハンを使用したことが好評であったことなどを挙げていた。「ふつう」を選択した学生は35% (5人) で、予想していなかった行動や空間があったが、最後までやりきることができたこと、細かい部分はできなかったが具体的な子どもの姿を予想することが大事だと分かったこと、事前の準備が必要で子どもの姿と照らし合わせるべきだったことが分かったこと、部分実習を実施したが保育の流れや天候を考慮すべきだったこと、導入から次の活動への移るまでの事を考えて活動を進められるように努めたいことなどが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は7% (1人) で、子どもたちがシャボン玉遊びを好んでいるとのことで、「シャボン玉のコーナー」を作ったことが挙げられていた。「全くできなかった」を選択した学生は21% (3人) で、自分が研究保育を実施しなかったことを述べていた。「無記入」は14% (2人) であった。

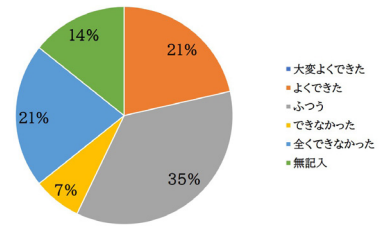


図7 「研究保育 (責任実習)」の実施 (n=14)

8. 実習全体の振り返り (今後に向かっての感想)

1) 本実習での学び

- ・たくさんの子どもたちと関わることができて良かった。
- ・子どもの様子を見ながら保育に取り組むことができた。
- ・一人一人に合った援助の難しさを知った。
- ・子どもに平等に声を掛けることの大切さを知った。
- ・次の行動を予測して動くことが大切であることを知った。
- ・活動に積極的に取り組むことが大切であることを知った。
- ・一人一人にどう関わるかべきかを考えることが大切であることを知った。
- ・常に子どもたちに声を掛けることが大切であることを知った。
- ・0～5歳児の全ての年齢に関わることができた。
- ・年齢に合わせた関わり方が学べてよかった。
- ・積極的に関わられた。
- ・活動の区切りや切り替え方、どのような教材を使用するか、言葉のかけ方を学ぶことができた。
- ・子ども主体の保育があることを知った。
- ・自分から積極的に声を掛けることができなかった。
- ・異年齢保育の関わり方が難しかった。

2) 今後に向かっての感想

- ・手遊びのレパートリーを増やすこと。
- ・指導案作成に当たっては、しっかりと子どもの活動を予想して作成したい。
- ・実習で学んだ多くのことを将来活かして保育者を目指したい。
- ・もっと、保育スキルやコミュニケーションスキルを高めていきたい。

4年生実習アンケート結果

1. 事前に立てた実習の目標達成度 (図 8)

「たいへんよくできたを」を選択した学生は31% (5人) で、目標を達成できるように毎日取り組んだこと、自信を持ち子どもたちの前に立ち関わり、「気になる子への関わり」も学べたこと、自由保育の時間の流れが分かり声掛けや援助ができたこと、食育の実践ができたこと、目標とした6つの努力点が達成できたこと、目標を常に念頭に置いて実習に臨んだことなどを挙げていた。次に「よくできた」を選択した学生は50% (8人) で、おおよその目標が達成できたこと、子どもとの関わり方やトラブルの仲裁の仕方にも目を向けられたこと、子ども理解や保育者からの学びができたこと、子どもたちが好きな活動が分かったことや保護者対応が学べたこと、実際の目標に沿って学ぶ理由を理解して取り組んだこと、個々の関わり方が少し困難であったこと、保育者との交流が積極的にできなかったこと、自由遊びでの子どもたちとの関わり方はできたが、全体を見て行動する目標は難しかったことなどを挙げていた。次の「ふつう」を選択した学生は13% (2人) で、目標はおおむね達成できたが保護者対応ができなかった。「できなかった」を選択した学生は6% (1人) で、研究保育が上手いかなかったことを挙げていた。「全くできなかった」を選択した学生はいなくて0%だった。

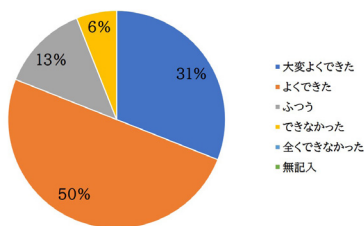


図8 事前に立てた実習の目標達成度 (n = 16)

2. 「手遊び」の実施 (図 9)

「たいへんよくできた」を選択した学生は44% (7人) で、事前にしっかり用意していたのでよくできたこと、複数の手遊びを練習し用意していた絵本を読む前に実施したこと、絵本を読む前や食事の前、自由時間の時と場面を使い分けて実施したこと、子どもたちの様子を数日間観察し年齢に合った手遊びを実施したこと、実習前にレポーターを増やし絵本を読む前に実施したこと、午睡の前に実施したことなどを挙げていた。「よくできた」を選択した学生は13% (2人) で、研究

保育の時に実施できたこと、もう少し年齢の事を考えて実施すればよかったなどを挙げていた。「ふつう」を選択した学生は25% (4人) で、絵本を読む前と次の遊びの待ち時間に実施したこと、実施したがいろいろな手遊びができなかったのもっと数を増やすべきだったこと、実施したが歌詞が曖昧で良く覚えていなかったこと、実施したが子どもたちが知らない手遊びだったので、もっと多くの種類を練習すべきだったことなどを挙げていた。「できなかった」を選択した学生は6% (1人) で、実施する機会はあったのだが自分がしっかり覚えておらずできなかったことを挙げていた。「全くできなかった」を選択した学生は12% (2人) で、実施する機会がなかったこと、担当の保育者に絵本を読む前に実施するように助言を頂いたことなどが挙げられた。

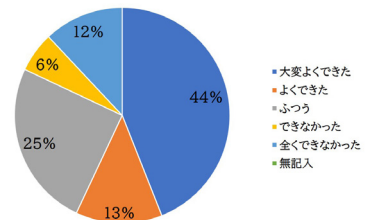


図9 「手遊び」の実施 (n = 16)

3. 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施 (図 10)

「たいへんよくできた」を選択した学生は62% (10人) で、前もって準備していたので自信をもって読むことができたこと、抑揚や声のトーンも気をつけて読むことができたこと、読む速さや声の大きさを工夫して読むことができたこと、最初は読むのが早かったが工夫して上手に読めるようになったこと、子どもの目線に合わせて見やすい位置で読むことができたこと、研究保育で読んで担任の先生に褒めて頂いたこと、午睡前に年齢に合わせて読むことができたこと、年齢に合わせて絵本を選び積極的に読ませて頂いたこと、場面を考えて声のトーンや大きさをよく考えて読むことができたことなどが挙げられていた。「よくできた」を選択した学生は19% (3人) で、毎日読む時間を頂き、年齢に合わせた絵本選びをして実施できたこと、3～5歳児の絵本は自分で選び読んだが、2歳児の絵本は長すぎたこと、抑揚を工夫して上手く読めたが、子どもたちの笑いを上手く鎮めることが難しかったことが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は19% (3人) で、自由遊びや午睡の前に見やすい位置や読む速

さを考えて読むことができたこと、実習前半はできなかったが後半に自分からお願いして読ませてもらったこと、4歳児に少し長い絵本を読んでもらったことなどが挙げられていた。「できなかった」と「全くできなかった」を選択した学生はどちらも0%だった。

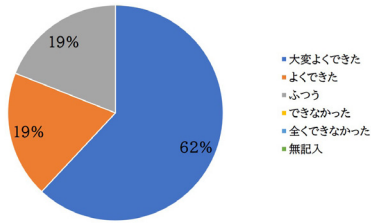


図10 「絵本・紙芝居の読み聞かせ」の実施 (n=16)

4. 「ペープサート・パネル・エプロン・手袋シアター」等の実施 (図11)

「たいへんよくできた」を選択した学生は19% (3人) で、自作の手袋シアターで「どんな色が好き」を演じたこと、研究保育でペープサートを演じて上手にできたこと、研究保育で手袋シアターを実施し、お別れ会では「はらぺこあおむし」のエプロンシアターを実施したことなどが挙げられていた。「よくできた」を選択した学生は6% (1人) で、午睡やおやつの前に「スケッチブックシアター」を実施したことが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は6% (1人) で、パネルシアターの実施をしたこととあった。「できなかった」を選択した学生は19% (3人) で、パネルシアターの選択が年齢に合わなかったことや、理由は記入されていない学生もいた。「全くできなかった」を選択した学生は37% (6人) で、演じる機会がなかったことや気持ちはあったが1回も演じられなかったといった意見があった。無記入が13% (2人) であった。

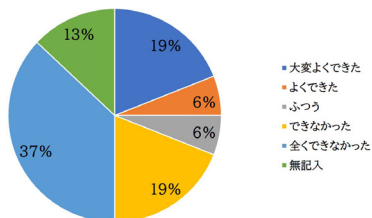


図11 「ペープサート・パネルシアター・手袋シアター」等の実施 (n=16)

5. 「ピアノの弾き歌い」の実施 (図12)

「たいへんよくできた」を選択した学生は13% (2人) で、ピアノは弾くことはなかったが、歌

は子どもたちと一緒に歌ったこと、「帰りの会」でピアノを弾くことができたことなどが挙げられていた。「よくできた」を選択した学生は13% (2人) で、ピアノは弾かなかったが歌は歌ったこと、普段ピアノは弾かないが、2日間弾くことができたことが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は13% (2人) で、園長先生が弾かなくても良いと言われたことや、ピアノを弾いたのだが途中で止まったりしたのでスムーズに弾けるように練習をしたいと思ったことなどが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は13% (2人) で、ピアノを弾く機会がなかったことや1回だけだったが研究保育で「おもちゃのチャチャチャ」を弾いたことなどが挙げられていた。「全くできなかった」を選択したのは50% (8人) で、弾く機会がなかったと記入した学生がほとんどで、片手で弾いた学生もいたこと、ピアノは弾かなかったが歌だけはしっかり歌ったことなどが挙げられた。

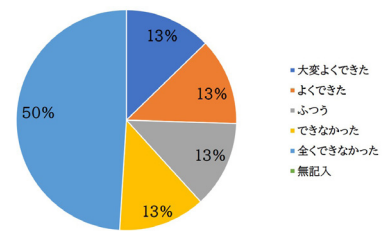


図12 「ピアノの弾き歌い」の実施 (n=16)

6. 「指導案作成について」 (図13)

「たいへんよくできた」を選択した学生は56% (9人) で、しっかり見直して提出したら担任の先生に褒められたこと、初日に指導案を提出し、担任の先生と話し合い順調に進んだこと、初日に提出して担任の先生に指導をして頂き何回も書き直しをしたので良くできたこと、丁寧に記入し第三者が見てもわかるように書いたこと、担任の先生の要望を取り入れながら提出期限を守って提出できたこと、前もってよく考えて作成したのであまり苦労がなくて書くことができたこと、「子どもの姿」を除いて早めに準備していたので初日に担任に提出できたことなどが挙げられていた。「よくできた」を選択した学生は19% (3人) で、作成においてはまず子どもの集中力がどのくらいあるかで時間を設定することが大事であることが分かったこと、担任の先生のアドバイスを頂いたことで自分の力で書けたこと、「子どもの姿」や「ねらい」を考えて子どもたちが、まず、楽しく

遊べるかを考えながら作成したことなどが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は19%（3人）で、担任の先生に助言や指導を頂いて何回もやり直して書くことができたこと、あまり、「子どもの姿」や場面の対応が上手いかなかったこと、「子どもの姿」を見る前に指導案を提出してしまったことなどが挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は6%（1人）で、指導案作成の取り掛かりが遅く、保育を実施した内容は保守的になってしまったことなどを挙げていた。「全くできなかった」を選択した学生は0%だった。

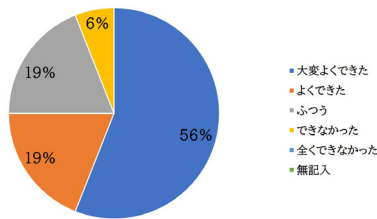


図13 「指導案作成」について (n=16)

7. 「研究保育」(責任実習)の実施(図14)

「たいへんよくできた」を選択した学生は44%（7人）で、先生方にたくさん褒めて頂いたこと、途中の出来事にも臨機応変に対応して最後までできたこと、3歳児が楽しく遊んでいる姿が見られ、保育が全体を見て進められたこと、途中、先生方の援助を頂き最後まで実施できたこと、子どもたちと楽しく有意義に遊べたこと、落ち着いて対応ができ年齢に合わせてトラブルもなく終了したことなどが挙げられていた。「よくできた」を選択した学生は25%（4人）で、少し早くなったが最後まで終わることができたこと、子どもたちが「また遊びたい」と言ってくれたこと、個人差はあったがすぐに対応し、子どもたちが満足している様子が見られたこと、自分では欲がない内容だったと思っていたが担任の先生から「やさしい保育だった」と言われ褒められたこと、準備した保育内容は活用不足や説明不足でメリハリはなく、反省点の多い内容だったが、自分の中では成長できた実習だと思えたことなどが挙げられていた。「ふつう」を選択した学生は25%（4人）で、研究保育での時間配分が上手いかなかったことや、子どもたちは楽しそうに遊んでいたが、時間配分や指導案通りにはいかなかったこと、緊張のあまり次に何をすべきかを忘れてしまったこと、保育の内容が子どもの年齢に合っていなかったようで子どもたちが難しい表情をしていたことなどが

挙げられていた。「できなかった」を選択した学生は6%（1人）で、反省点が多かった保育内容であり、担任の先生より多くのアドバイスを頂いたことなどが挙げられていた。「全くできなかった」を選択した学生は0%だった。

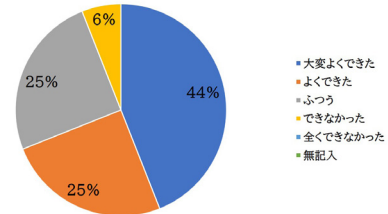


図14 「研究保育(責任実習)」の実施 (n=16)

8. 実習全体の振り返り(今後に向かっての感想)

1) 本実習での学び

- ・子どもたちと関わる自分が好きであることが分かった。
- ・子どもたちのトラブルの仲裁を何回か重ねていくうちに、保育者らしい対応ができるようになった。
- ・「異年齢保育」や「見守りの対応」が学べたことが良かった。
- ・積極的に関わり、未満児の食事の介助、シャワー、おむつ交換などの体験ができたことが良かった。
- ・「気になる子どもへの対応」ができたことが良かった。
- ・「子どもの一人一人の気持ちに寄り添うこと」が出来て先生に褒めて頂いたことが良かった。
- ・まず保育者として、「子どもたちの姿」、「園の方針」、「園の遊び方に対するルール」を知ることが大事であることが分かった。
- ・周囲を見渡しながら動いたり、声を出したりすることが大事であることが分かった。
- ・子どもの関わり方、声掛けなどその時々の場合に応じた援助の大切さを知った。
- ・保育の実践の前には、一度落ち着いて深呼吸すると落ち着いてできることが分かった。
- ・話すスピードが早かったのも、これからはゆっくり話すように努めたい。
- ・完全に覚えていない状態で、「手遊び」や「研究保育」を行ったことが反省点である。
- ・全体的に反省点の多い実習だった。

2) 今後に向かっての感想

- ・様々な場面で対応できるように努力したい。

- ・「誤字脱字」を減らし、ピアノの練習に励みたい。
- ・「子ども主体となる保育」に取り組みたい。
- ・「ピアノ」、「手遊び」のレパートリーを増やすことに努めたい。
- ・苦手な「手遊び」の種類を増やしたい。

以上が3年生、4年生の実習後のアンケートの結果である。どの項目においても、『学生の実習後の多くの学び』を感じ取ることができた。成功もあれば失敗もあり、今後に向かっての感想でも、反省点をしっかり努力してさらなる向上を願う気持ちが表れていた。この結果が3年生においては次年度の実習に生かされること、4年生においては4月からの保育現場で生かされることを心から願っている。

考察

このアンケートを通して、次年度の保育実習への努力点や考慮していくべき点がみえてきた。「事前実習の目標達成度」においては、概ね85%の学生が良くできたとし努力が見えていた。「手遊びの実施」では、「できなかった」、「全くできなかった」の割合が28%であり、今後も実習前の練習やレパートリーを増やすことなどが必要と感じた。「絵本や紙芝居の読み聞かせの実施」では、ほとんどの学生が実施できており、このまま、年齢別の絵本選択や実習前の模擬保育における練習を引き続き行っていきたいと考えている。「ペープサート・パネル・エプロン・手袋シアター」の実施においては、「できなかった」と「全くできなかった」、「無記入」の割合が63%であり、今後も自作の手袋シアターをはじめ、実習前の模擬保育において演じることにより、自信や演技力を身に付けることが必要だと感じた。「ピアノの弾き歌いの実施」においては、「できなかった」、「全くできなかった」、「無記入」の割合が77%であり、同様に実習前の取り組みについて考慮していくべきかと思われる。「指導案作成」においては、「全くできなかった」と「無記入」の割合が49%であり、関連科目において早期より指導案作成の意義、作成に必要な知識等について学びを深めておく必要性を強く感じた。そして、実習前までに年齢別の指導案を作成し、それに基づいて模擬保育を実践することで、新たな気づきや学びを次に生かすことができるように、また一人ひとりの学

生が自信をもって研究保育に臨めるように持っていけたらと考えている。「研究保育の実施」においては、「できなかった」、「全くできなかった」、「無記入」の割合が42%であり、この項目においては実習園の方針も考えられるが、将来を見据えて実習前の模擬保育を実施することにより、少しでも自信や力をつけられるように持っていけたらと考えている。

参考文献

- 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部
(2021)「保育通信」2021年1月号 No.790
付録 『新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査』 報告書
https://www.zenshihoren.or.jp/files/research-tyousa_20210106.pdf
(令和6年12月27日閲覧)
- 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部
2020年5月 『新型コロナウイルス感染症に関する調査』 報告書
<https://www.zenshihoren.or.jp/about/diagram/tyousa.html>
(令和6年12月27日閲覧)
- 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部
2020年7月 『新型コロナウイルス感染症に関する調査2』 - 第1波感染期間を振り返る - 報告書
<https://www.zenshihoren.or.jp/about/diagram/tyousa.html>
(令和6年12月27日閲覧)
- 音田忠男・八田清果・真砂雄一・奥恵(2022)
保育者養成校におけるコロナ禍での保育実習・実習指導の在り方についての一考察 学校法人小池学園 研究紀要 第20号 (令和7年1月9日閲覧)
- 濱本麻理野(2022) コロナ禍における幼稚園実習での学生の学び-実習事後質問紙調査から- 豊岡短期大学論集 第19号 (令和7年1月9日閲覧)